

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度古川美術館の分館 爲三郎記念館では、

愛知県立芸術大学退任記念 「土屋公雄展 ときめきの庭／記憶の部屋」を
開催致します。

愛知県立芸術大学の彫刻専攻で長年教鞭をとられた土屋公雄教授が令和2年3月に退任されます。それを記念して、土屋氏初となる数寄屋建築での作品展となります。本展の為に制作された作品もありますので、是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

会場 爲三郎記念館

(古川美術館分館)

開館時間 10時～17時

(最終受付16時半)

休館日 月曜日 但し最終日は開館

主催 公益財団法人 古川知足会

愛知県立芸術大学

後援 愛知県教育委員会、
名古屋市教育委員会、
中日新聞社、

beyond2020 プログラム

スターキャット ケーブルネットワーク株式会社



2(木)、5(水)の両日は展示替えのため
爲三郎記念館のみ臨時休館します。

愛知県立芸術大学



展覧会 基本情報

愛知県立芸術大学退任記念

「土屋公雄展 ～ときめきの庭／記憶の部屋」

土屋公雄は、1955年福井県生まれの彫刻家、環境造形アーティストです。一貫して「所在・記憶・時間」をテーマとし、流木や自然木を集積する原始的で神話的な作品、解体された家屋の廃材や灰を精緻かつ大胆に構成する作品を発表しています。そんな土屋は2020年3月に愛知県立芸術大学を退任します。本展はそれを記念するもので、土屋初の日本家屋での個展となります。

会場となる古川美術館の分館 爲三郎記念館は、創建85年を超える歴史を有した数寄屋建築で、本館の古川美術館の初代館長・古川爲三郎の自宅でしたが、没後に記念館として公開しています。長い歴史をもつ建物だけに、多数の記憶も有しています。そんな爲三郎記念館を舞台に、大型作品の多かった土屋が、今回あえて展示の場として数寄屋建築の爲三郎記念館を選び、『ときめきの庭／記憶の部屋』と題し展示を展開。作品は手の中に収まるサイズですが、その作品は土屋の内に広がる広大な記憶の海につながっています。その記憶の海から現れ出たものが“山”という形となり室内に広がります。この“山”は本展の核心となるものであり、古来日本人の山であり、やまと絵などで描かれてきた“日本の山”です。そして展示ではこの山だけでなく、いくつものイメージが重なり合い展開していきます。その展開する場こそが『ときめきの庭／記憶の部屋』なのです。ここで作品に出会った鑑賞者は、作品に込められた土屋の記憶に触れることによって、自身の記憶をよみがえらせ、作品と交差させ、新たな感動を味わいます。本展は土屋の記憶だけでなく、それを鑑賞する多くの人々の記憶をも有する“庭”となると同時に、過去から未来へとつながっていく土屋公雄の新しい世界を体感する“部屋”でもあるのです。

会 期 2020年2月6日(木)～3月1日(日)

※2/4(火)、5(水)の両日は展示替えのため、記念館のみ臨時休館します。

場 所 分館 爲三郎記念館(古川美術館分館)

開館時間 午前10時～午後5時 (最終入館は午後4時半)

主 催 公益財団法人 古川知足会 / 愛知県立芸術大学

後 援 愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会・中日新聞、

beyond2020 プログラム(予定)、スターキャットケーブルネットワーク株式会社

観覧料 大人1,000円／高・大学生 500円／中学生以下無料 美術館との共通券

※割引等は美術館に準ずる。

担当学芸員： 学芸課 山内綾子(広報兼務)

mail: a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp

公益財団法人古川知足会

古川美術館 分館 爲三郎記念館

Tel.052-763-1991(代表) Fax052-763-1994(直通)

●作家紹介●



写真:愛知県立芸術大学
彫刻専攻 土屋研究室HPより

土屋公雄 (1955 —)

TSUCHIYA KIMIO

- 1955年 福井県福井市生まれ
 1977年 日本大学芸術学部建築デザイン科卒業
 1989年 ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ美術彫刻科修士課程修了
 1990年 プライマル・スピリット展(企画原美術館)/ロサンゼルスカウンティ 美術館、ルフィーノ・タマヨ美術館(メキシコ)など巡回。「Eternity」フランスのヴァシビエール現代美術センターで個展
 1992年 「所在」青山スパイラルガーデンで個展
 1993年 USIS米国務省のプログラムにてアースワークを視察
 1996年 「虚構と記憶」原美術館で個展
 1999年 森に生きるかたち展/箱根彫刻の森美術館
 2000年 シドニーオリンピック2000・モニュメント制作
 2001年 東京空襲犠牲者追悼・平和モニュメント制作
 2002年 第25回サンパウロ・ビエンナーレ
 2003年 越後妻有アートトリエンナーレにて「創作の庭」を制作。「記憶の家/覚醒する時間」発電所美術館で個展。「未現像の記憶」
 2004年 作品「記憶の領域」が文化庁買上げとなる
 2005年 アートドキュメント2005未現像の記憶—土屋公雄展/金津創作の森
 2006年 日本のパブリックアート展/世田谷美術館
 2009年 土屋公雄APT(アートプロジェクトチーム)設立
 2010年 愛知県立芸術大学プロジェクトチームとして瀬戸内国際芸術祭に参加
 2012年 「夢のあとに/交差する時間」福井県立美術館で個展
 2015年 戦後美術クローズアップ展/東京都現代美術館

「所在/記憶」をテーマとし、解体された家屋の廃材や灰を素材とした作品は、国際的な現代美術展へも数多く出品。さらに世界各地より招待され、その土地の人々の記憶を刻むパブリックアートなどの彫刻作品を制作。国内では丸ビ正面エントランスに設置されたモニュメントや東京空襲犠牲者追悼の平和モニュメント制作でも知られる。近年は「場」や「地域」の歴史・文化や環境に関わるサイトスペシフィックなアートプロジェクトを展開している。

《受賞歴》

1990年朝倉文夫賞、91年現代日本彫刻展大賞、92年神戸須磨離宮公園現代彫刻展優秀賞、93年五島記念文化賞、99年英国オナラリー賞、青森野外彫刻展優秀賞、01年奈良県景観調和デザイン賞、03年本郷新賞、04年作品「記憶の領域」が文化庁買上げとなり、12年福井新聞文化賞を受賞、その他。パブリックコレクション世田谷美術館(東京)、原美術館(東京)、モントリオール現代美術館(カナダ)、東京都現代美術館、グライズデール野外美術館(イギリス)、北海道立旭川美術館、クィーンズランド州立美術館(オーストラリア)、広島現代美術館、ミデルハイム野外美術館(ベルギー)、札幌彫刻美術館、国際芸術センター(青森)、宇部市常盤彫刻公園(山口)、シドニー市ボタニックガーデン(オーストラリア)、朝倉彫塑館(東京)、東京オペラシティー、福井県立美術館、文化庁、その他。

《著書》

所在 / 土屋公雄彫刻作品集』(アトリエ出版社、1992年)、『記憶 / 土屋公雄彫刻作品集』(美術出版社、2001年)、『月を追いかけて—記憶と永遠をめぐる旅』(ティルナノグ出版、2015年)

●本展の見どころ●

やまと絵などで描かれてきた “日本の山”

本展の一番の見どころは、日本人の心の中にあり続ける山。それは水墨画に描かれた険峻な山ではなく、なだらかで丸みを帯び、世界と調和するような姿をしていると、土屋は言います。

土屋は古くから屏風や絵巻物に描かれてきた日本の山の姿を研究し、石を削り、磨いて形作っていきました。作品(山)はどれ一つとして同じ姿のものではなく、石それぞれが持つ色などを活かして、作品となっています。

そんな山が、為三郎記念館の和室に展開し、暈は一瞬で海になり、雲になり、観る者に様々なイメージをもたらすことでしょう。



土屋公雄の世界 “記憶の部屋”

副題の「ときめきの庭／記憶の部屋」の通り、「記憶」がもう一つのテーマとなっています。この記憶は土屋自身の記憶であり、作品を観る者の記憶でもあります。

作品「烏帽子」(写真)では古いガラスを繋げて、石を包み込んでいます。古ガラスが持っている記憶と、石が持つ記憶、その両者が重なり合うことにより、そこに新たな記憶が生まれてきます。そこに分館 為三郎記念館が持っている記憶も重なり、古くもあり、新しくもある記憶となります。石の代わりに、古い木を古ガラスで包み込んだ作品なども出品予定です。



「烏帽子」(えぼし) 2019年
自然石、アンティークガラス
/h33×w32×d14cm

分館 為三郎記念館のそれぞれの部屋の特徴(記憶)に合わせて、展示される作品。そんな様々に姿を変えて出現する“土屋公雄”の記憶。過去と現在が、記憶と寛容が交差し、鑑賞者を魅了することでしょう。

関連イベント

◆ 土屋公雄 アーティストトーク

日時：① 2月15日(土) 15:00～
② 2月23日(日) 14:00～

場所：分館為三郎記念館

参加費：無料 予約不要。

当日会場へお越してください。

※別途 2館共通券必要

◆ 溪山名月の茶会 要予約

日時：2月24日(月・祝)
①10:15～ ②11:00～ ③11:45～
④13:30～ ⑤14:15～

場所：分館為三郎記念館 庭園茶室「知足庵」
(座礼)参加費：2000円(薄茶)

別途 2館共通券必要・単館券使用不可
定員：各席7名

好評につき、
すでに満席